

今日のトピック 豪州の金融政策は引き続き据え置き (2017年9月)

日豪の金融政策の方向性の違いは豪ドル高要因となろう

ポイント1 政策金利は現状維持

市場予想通り1.50%で据え置き

- 豪州準備銀行 (RBA) は9月5日に開催した金融政策決定会合で、政策金利を1.50%に据え置くことを決定しました。12会合連続の据え置きです。ブルームバーグ社の集計によれば、対象27名のエコノミスト全員が据え置きを予想していました。

ポイント2 当面、現状維持の見通し

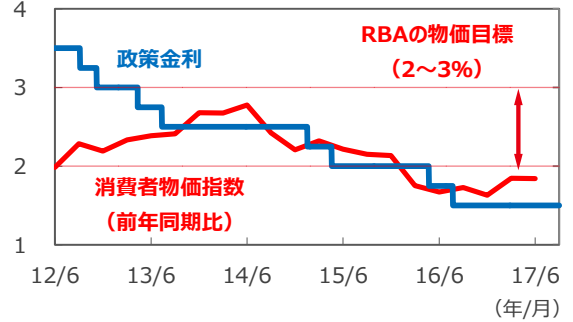
景気、物価はRBAの想定通りの展開

- 景気については、資源セクターの調整がほぼ一巡したとの見方を維持し、企業を取り巻く環境は良好と評価しました。雇用は増加の勢いを強めており、失業率は足元の5.6%から今後さらに低下する見通しとしました。
- インフレ率は、RBAの目標レンジの下限である+2%をやや下回っていますが、経済成長率が加速するにつれ、今後緩やかに高まると見えています。
- 最近の豪ドル高については、インフレを抑制する一方、景気、雇用の下押し圧力となる可能性 (経済見通しの下振れリスク) を指摘しました。
- 景気や物価、為替の評価に加え、懸念していた住宅市場過熱に鎮静化の徴候との判断を踏まえると、金融政策は当面、据え置かれる見通しです。

今後の展開 豪州通貨は底堅い展開へ

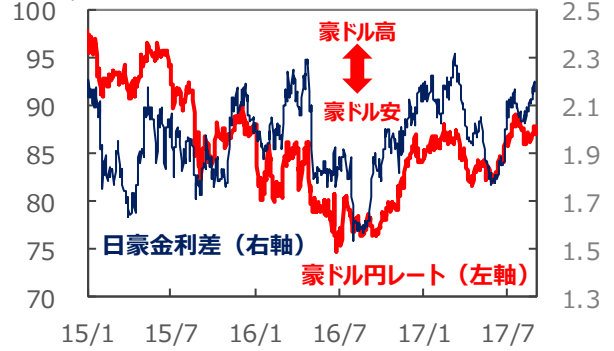
- 資源価格の上昇や日豪金利差の拡大等により、最近の豪ドルの対円相場は堅調に推移しています。今回の金融政策決定会合直後の豪ドルは、政策金利据え置きの決定が市場の予想通りだったため、主要通貨に対して小動きにとどまりました。
- 先行きについても、①日豪の金融政策の方向性の違い (RBAは中立維持、日銀は緩和姿勢を継続の見通し)、②豪州の景気や国際収支の改善、③資源価格の持ち直し等から、豪ドルの対円相場は底堅く推移する見込みです。

(%) 【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2012年4-6月期～2017年4-6月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2012年6月30日～2017年9月5日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(円/豪ドル) 【豪ドル円レートと日豪金利差】 (%)



(注1) データは2015年1月2日～2017年9月4日、為替は2017年9月5日まで。ただし、2017年9月5日は日本時間14時時点のレート。
(注2) 金利差は豪州-日本。金利はともに3年国債利回り。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年8月29日 改善が進む豪州経済 堅調な展開が見込まれる豪ドル
2017年8月 9日 豪州株式市場の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。